

(株)ほころび建設 代表取締役

水野 和人



(株)ほころび建設 専務

水野 静子

左官業を営む父親に憧れ、16歳という若さで建設業界に飛び込んだ水野社長。
先輩たちに揉まれながらも、真面目に取り組む姿勢で技術を磨いた。
そんな社長に独立を勧めたのは、人生の伴侶であり、先輩経営者でもある静子専務。
専務は経営者として培ってきた豊富な経験とノウハウをもとに、
社長が経営に行き詰まりそうになった時には悩みを聞き、
的確なアドバイスをすることで背中を押してきた。
「私が経営者としてここまでこれたのは、専務のお陰です」と語る社長。
良き理解者を得た社長は、『ほころび建設』を力強く牽引していくのだろう。
(対談記事は*~*頁に掲載)

「良き理解者がそばにいるのは心強い。
人生も経営も2人で——」

従業員を大切にしている経営方針を軸に 笑顔と向上心溢れる組織でありたい

株式会社 ほころび建設

愛知県豊橋市東松山町 28 番地 2 福田オフィスビル 1F

外構工事や舗装工事、左官工事などを手掛けている『ほころび建設』。2020 年に法人化を果たした同社の根底には、「従業員を大切にしている」という経営方針がある。その方針のもと、水野社長は奥様であり経営者としての先輩でもある静子専務と共に同社を運営。従業員の意見を取り入れ、また顧客のニーズに応える経営を心掛けている。本日は渡嘉敷勝男氏が社長と専務にお話を伺った。

真面目に現場に向き合い続け 建設業界で独立を果たす

——まずは水野社長の歩みから順を追ってお伺いします。

(和) 愛知県出身です。幼い時から左官業を営む父に憧れを抱いていたため、将来進む道は建設業界しか考えていませんでした。中学卒業後、16 歳のころには親戚が経営する土木工事会社に入社。一職人として現場仕事に従事し、同世代がいない中、先輩たちに揉まれながら成長していきました。

——お若いころから技術を磨いてこられたわけですね。早くから独立心をお持ちだったのでしょうか。

(和) いいえ、独立心はありませんでした。実は、私が独立するきっかけをつくってくれたのは、妻なんです。勤務時代、私は仕事の後、バーテンダーとして働いていました。そのバーのオーナーが妻だったんです。

(静) 主人は真面目で、着実にバーの仕事をごこなしてくれていました。仕事にこれだけ真面目に向き合える人なら独立してもやっていけるはずですから、昼間に職人として現場に出ていると聞いて、「独立してはどうか」と声を掛けたんです。

(和) 経営者として先輩である妻に専務を任せ、2013 年に『ほころび建設』をスタート。当社は主に協力会社と共に外構工事や舗装工事、左官工事、重機オペレーターなどを手掛けています。

——実際にスタートされてみて、いかがでしたか。

(和) 自分で言うのも何ですが、私は対

人能力が高く、人とコミュニケーションを取ることが得意でした。そのため独立後に営業を掛けたところ徐々に取引先を増やしていくことができたんです。お陰様で、2020 年には法人化を果たすことができました。

(静) 主人は剣道を 9 年間続けてきたこともあり、見かけによらず義理堅い性格なんですよ (笑)。

——対人能力が高くて義理堅いとは、周囲から信頼を得られるのも頷けます。社長から見て、経営者として先輩である専務の存在は心強いのではないのでしょうか。

(和) ええ。専務は経営のプロですから、豊富な経験を持つ経営者としての視点から当社を見て支えてくれていることは、大変心強いですね。それに私が悩みを相談すると「そんなこと大したことないよ」と言ってくれるので、いつも背中を押してもらっています。

(静) 私自身が経営者として通ってきた道ですからね、よく分かるんです。

過去の失敗を乗り越えて 良きリーダーへと成長

——法人化されてから振り返られていかがですか。

(和) 法人化した当初は全てが手探りで、とにかく成果を上げなくてはならないという焦燥感にかられて仕事をしていました。その中で、従業員を大切にしている企業として大切にすべき基本方針を見失ってしまったんです。結果、数名の従業員が我々のもとを離れていってしまい、非常につらい思いをしました。

当時の行いを反省し、二度と同じ過ちを繰り返さないためにも「従業員を大切にしている」ことを根本として会社経営に臨んでいます。今は少しずつ従業員数も回復していますから、嬉しいですね。

——それは、社長が従業員さんを実際に大切にされているからこそです。社長の想いは従業員さんに伝わっていることでしょうか。

(和) もちろん現場に出ています。同時に経営者として仕事を確保する責任も背負っていますので、営業活動にも力を注いでいます。また、お客様のニーズに応えることで企業として成長していけるよう、今後は今の時代に合ったセンスの良いものをつくりだしていきたいと考え、コンクリート打ちっぱなし風の味わい深い空間に仕上げられる塗料なども仕入れたんですよ。これからは従業員の意見を聞きつつ、どんどん新しいものを取り入れてお客様のニーズに即した空間づくりを提案していきたいですね。

——それは、お客さんもお喜びになられることでしょうか。では最後に今後の目標についてお聞かせください。

今後は従業員を 3 人×3 班に分けて 9 人体制で現場を回していくつもりです。そうすることで、10 年後には私が現場に出なくても現場が回るようにしていきたいですね。そうして私にゆとりが生まれれば、デザイン業務にも力を入れられるようになる——事業の充実化を図ります。

——応援しています！

(取材／2021 年 11 月)

代表取締役

水野 和人



専務

水野 静子

社名「ほころび建設」に込められた深い想いについて

「ほころび建設」の社名には水野社長の深い想いが込められている。社長が最初、社名に入れようとしたのは、笑。——では何故、ほころびになったのか。それは静子専務が助言した結果である。実は、笑、は字面から運勢を判断した時に建設業に相応しくないので、専務が社長にそのことを伝えたところ、社長は「それならば、ほころび、はどうか」と提案。現在の社名になった。

社長は「専務から、笑、はやめた方がよい」と言われた時、ほころびが頭に浮かんできたんです。笑顔は「顔がほころぶ」とも言いますから」と笑顔で語ってくれた。他にも、ほころびには「つばみから花が咲く」「緊張から解き放たれて笑顔になる」といった意味がある。これからも社名に込められたその想いの通り、笑顔が絶えない同社であり続けることだろう。

【従業員の方々の集合写真】などお送りいただけるお写真がございましたら入れさせていただくスペースです。お写真はなるべく大きいサイズで下記のメールアドレスまで、お送り下さい。お写真の枚数に合わせ、レイアウトは調節させていただきます。

n_tanaka@kokusaig.co.jp



guest interviewer

渡嘉敷 勝男

『『ほころび建設』さんの社名に込められた想いの通り、水野社長も静子専務も笑顔の素晴らしい方でした。職場に笑顔が多いと気持ちよく働けますから、これからも笑顔で従業員さんを牽引していただきたいですね。頑張ってください。応援しています！』

